

資料5-1. 岡崎消防の救急搬送に関する資料

平成26年中に救急車で搬送された傷病者数は、前年より111人減少の13,610人であった。
 年齢別で見ると高齢者(65歳以上)の搬送が7,252人(約53%)と最も多く、次いで成人(18歳～64歳)の搬送が5,058人(約37%)である。

急病と一般負傷では高齢者の占める割合が特に多く、高齢化社会を象徴していると考えられる。

1 年齢別搬送人員

事故種別		火災	自然災害	水難事故	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
年齢・性別													
新生児 (生後28日以内)	男							2			3	24	29
	女							1			3	15	19
乳幼児 (生後29日口～6歳)	男				23			100			291	18	432
	女				19		1	66			200	9	295
少年 (7歳～17歳)	男				102		41	50	3	1	107	8	312
	女	1			63		13	23	1	7	100	5	213
成人 (18歳～64歳)	男	7		1	549	104	22	218	27	38	1,688	157	2,811
	女	4			358	19	10	167	16	54	1,390	229	2,247
高齢者 (65歳以上)	男	5			119	24	3	417	4	8	2,635	310	3,525
	女	6			162	2	2	678	4	6	2,567	300	3,727
小計	男	12		1	793	128	66	787	34	47	4,724	517	7,109
	女	11			602	21	26	935	21	67	4,260	558	6,501
合計		23		1	1,395	149	92	1,722	55	114	8,984	1,075	13,610

「その他」とは、転院搬送、医師搬送、医療資器材輸送等をいう。